



つづく つながる 夢を育てる学び
国立二小だより

令和5年(2023年)1月10日

国立市立国立第二小学校

校長 小林 理人

No one will be left behind

みんなの笑顔と安心

校長 小林 理人

あけましておめでとうございます。年末年始は穏やかな晴天に恵まれ、晴れやかな新年を迎えました。感染者数の増加傾向は続いています。対策を講じながらも行動制限はなく、今年には新しい年を迎える活気や賑わいを感じました。皆様はどのようなお正月をお過ごしになったのでしょうか。

ここ数年「誰一人取り残されない」という言葉をよく聞くようになりました。持続可能な社会をめざす行動目標「SDGs」の大原則を和訳したこの言葉は新しい社会を創るキーワードの一つにもなっています。そして、地球上にある国やそこに暮らす人々がその違いを認め合い、助け合ったり補い合ったりしながら生活することの価値を多くの人が認め、様々な活動が始まっています。

学校教育も例外ではありません。新しい学習指導要領や東京都や国立市の基本方針にもそのことが明記され、手探りではありますが、私たちも具体的な取組を始めています。

子供の笑顔と安心をめざした取組

本校では1年間を通してふわふわ言葉を意識しています。校内には2学期に行った運動会や展覧会に参加した子供たちの感想や友達への励ましや感謝の気持ちを伝えた言葉が掲示されています。

ふわふわ言葉は相手の心を気遣い友達のを傷つけない言葉です。二小の子供たちはこの言葉を上手に使いながら笑顔あふれる学校づくりを進めています。

また、各教室には「ふわふわ言葉」「言葉を選ぶ」「広い心で」の3つの標語が掲示されています。これは、私たち教職員が子供たちの指導や支援をする中で子供の心を傷つけないために意識することです。12月に行ったアンケート調査では「先生の優しい言葉がうれしかった」といった意見や感想がたくさんありましたが、「先生の言葉で傷ついた」「先生の言葉で傷ついている友達がいる」などの回答もありました。そして、今回もアンケート後にその子供たちの話を聞きました。

子供たちの話を聞いて、先生の何気ない一言や日常の指導の際の言葉であっても、使う場面や話し方によっては子供の心を傷つける場合があることを感じました。私たちはそのことを共有し、改めて子供の心を大切にしたい指導の必要性を確認しました。

多様な個性や特性に応じた居場所づくり

学校や家庭以外の子供の居場所づくりへの関心が高まっています。様々な個性や特性がある子供たちの居場所は多様でなければならぬという認識が少しずつ高まってきているようです。本校でも子供たちの学び方や学びの場についてたくさんの支援メニューを用意しています。子供が学校の環境で学ぶことだけでなく、子供の個性や特性に合わせた環境も整えながら子供が笑顔で安心できる学校をめざします。また、子供によっては学校以外の居場所も必要です。学校にできる支援では不十分な場合は学校以外との連携によって子供の居場所づくりを進めています。

今年の干支は「卯・うさぎ」です。うさぎのように大きな飛躍をする年になるよう、これまで本校で培ってきた本校の良さや子供たちの力を信じ、「No one will be left behind」みんなの笑顔と安心をめざし、全ての子供の居場所となる学校づくりを皆様と一緒に進めます。

登校時の安全を支えてくださっている皆様を紹介します

今年も、登校時の見守りや車止めのうま出し等でお世話になっている地域の皆様を紹介させていただきます。集団から個別に登校の仕方を変更し、安全への不安もある中、子供たちが安心して登校することが出来るのは、保護者や地域の皆様の見守りやご支援があればこそです。

子供たちの笑顔と安心を支えていただいている保護者や地域の皆様に心から感謝申し上げます。